

令和7年度宮崎県公私立高等学校連絡協議会議事概要

1 日時

令和7年6月3日（火） 午前10時から午前11時20分まで

2 場所

防災庁舎 56・57号室

3 出席委員（8名）

藤井委員、小野委員、高橋委員、三田委員、
後藤委員、土肥委員、長友委員、松元委員

4 議題

令和8年度高等学校進学者の収容対策について

・ 令和8年度定員調整案

＜県立学校＞

令和8年度の募集定員は、中学校卒業予定者の概ね7割とする。

＜私立学校＞

令和8年度の募集定員は、令和7年度の募集定員の範囲内とする。

※ 定員調整については、公私双方の役割を尊重しつつ、少子化等の社会情勢の変化を踏まえ、進学における子どもの選択肢の幅を拡げることや、地域における学校の存在の重要性などを勘案し、公私が積極的に意見交換を行いつつ、継続的に検討していくこととする。

その他の議題

- ・ 高校無償化による影響について
- ・ 広域通信制高校について
- ・ 地域における公私連携について

5 内容及び審議結果等

(1) 主な質疑等

- ・ 定員調整案としては、特に異論はなし。

(2) 主な意見等

- ・ 他県では、公立私立の定員割合7：3を撤廃、設けていない事例がある。今後見直しを検討していただきたい。また、会議の場が充実するように教育長や副知事も入っていただきたい。
 - 今のところは7：3という割合で、今後少子化の中で必要な改善等を考えた上で、公私が連携し、子どもたちの教育を充実させられるよう議論を重ねていく。
 - 出席者について、今すぐ回答はできないが今後検討していく。
- ・ 高校無償化に伴う影響について
 - 財源等の話を含めて丁寧な議論がなされていないことは懸念している。公私の教育環境の公平不公平感を是正していく議論も今後必要

ではないか。

- 私学側の資金的な恩恵はあまりないが、保護者の負担は軽減される。一般の方々へ丁寧な説明を行う。
 - 逆に私立教育への締め付けの材料になるのではないかと懸念がある。教育の質や機会均等をどう維持していくのか予算の問題もある。
 - 経済的な理由で私立高校に進学できない生徒もおり、子どもたちの選択の幅は広がったと感じている。
 - 制度が不明瞭・不透明な部分があり、保護者側は不安な部分がある。
- ・ 広域通信制高校について
 - はじめから広域通信制高校に行くことを決めている生徒もおり、増加傾向にあることは感じている。
 - 学校に行くことができていない生徒の受け皿になっている部分もある。広域の場合は県の管轄にないこともあり難しいとは思いますが、ちゃんと教育が行われているか気を配っていただきたい。
 - ・ ICT事業でタブレットを使用しているが、保護者としては負担とならないよう中学校と高校とで規格を統一してほしい。
 - 基本的には中学校で使用していたものをそのまま持ち込めるようにはしているが、専門高校では特定の機種を使用しないとできない授業があり、機種を変えざるを得ない実態もある。
 - 県教委としても入学時に保護者の負担とならないよう、各校に本当に必要かどうか検討してもらっているが、今後もしっかり検討していく。